

2023年12月5日

一般財団法人 化学及血清療法研究所

2023年度『化血研研究助成』『化血研ステップアップ研究助成』 『化血研若手研究奨励助成』の助成対象者が決定しました

一般財団法人 化学及血清療法研究所（理事長：木下 統晴、所在地 熊本市中央区）は、このたび開催されました理事会において、2023年度『化血研研究助成』6件、『化血研ステップアップ研究助成』2件、『化血研若手研究奨励助成』15件、計23件の助成対象者を決定いたしました。

各プログラムの「助成対象者一覧」、および選考委員長からの「審査講評」は下記の通りです。

記

【化血研研究助成】

感染症領域（人獣含む）及び血液領域を対象とした研究に対して助成を行い、対象領域の発展に寄与することを目的とする。

助成金額：2,000万円（1,000万/年×2年間）/件

助成期間：2年

採択件数：6件（申請件数97件：採択率6.2%）

助成対象者一覧

【化血研研究助成】

（五十音順・敬称略）

氏名	所属機関	職位	研究題目
鈴木 一博	大阪大学 免疫学フロンティア 研究センター	教授	新型コロナウイルス感染症における自己抗体産生機序の解明と制御
高田 礼人	北海道大学 人獣共通感染症国際 共同研究所	教授	汎フィロウイルス感染症治療薬開発に向けた基礎研究
竹田 誠	東京大学 大学院医学系研究科	教授	II型膜貫通型セリンプロテアーゼTMPRSS2による呼吸器ウイルス活性化機構
TOMA CLAUDIA	琉球大学 大学院医学研究科	准教授	宿主真核細胞のタンパク質分解系を利用する人獣共通病原細菌「レプトスピラ」の感染戦略
日吉 大貴	長崎大学 熱帯医学研究所	准教授	固定組織シングルセル RNA-seq 技術を用いたサルモネラ病原因子による宿主免疫細胞再構成の網羅的解析
横溝 智雅	東京女子医科大学 医学部	講師	造血システムの発生・維持・進化における造血幹細胞の役割について

【化血研ステップアップ研究助成】

感染症(人獣含む)領域及び血液領域を対象とした次世代の研究者の育成に資するために、過去の『化血研若手研究奨励助成』採択者の中から将来有望な研究をさらにステップアップするために助成し、対象領域の発展に寄与することを目的とする。

助成金額：600万円 (300万/年×2年間) /件

助成期間：2年

採択件数：2件 (申請件数13件：採択率15.4%)

助成対象者一覧
【化血研ステップアップ研究助成】

(五十音順・敬称略)

氏名	所属機関	職位	研究題目
黒滝 大翼	熊本大学 国際先端医学 研究機構	特任 准教授	炎症性樹状細胞の分化機序と機能の解明
白銀 勇太	九州大学 大学院医学研究院	講師	シス受容体はモルビリウイルス神経病原性の鍵となるか

【化血研若手研究奨励助成】

感染症(人獣含む)領域及び血液領域を対象とした次世代の研究者の育成に資するために、将来有望な若手研究者の研究を奨励助成し、対象領域の発展に寄与することを目的とする。

助成金額：300万円 (2年間300万円) /件

助成期間：2年

採択件数：15件 (申請件数158件：採択率9.5%)

助成対象者一覧
【化血研若手研究奨励助成】

(五十音順・敬称略)

氏名	所属機関	職位	研究題目
芦田 浩	東京医科歯科大学 大学院医歯学総合 研究科	准教授	病原性大腸菌感染における Effector-triggered immunity 発動機構とその制御機構の解明
笠松 純	鹿児島大学 大学院医歯学総合 研究科	講師	食物アレルギーにおける新規腸管好酸球サブセットの機能解析とその応用
金山 剛士	東京医科歯科大学 難治疾患研究所	准教授	生体ストレスへの造血応答解析を可能にする造血幹細胞同定法の開発
北本 宗子	大阪大学 免疫学フロンティア 研究センター	特任 准教授	腸内細菌叢を基軸とした難治性腸管感染症の病態解明と新規治療法の確立
櫻井 政寿	慶應義塾大学 医学部	専任 講師	クローナル増幅を用いたヒト造血幹細胞の遺伝子編集技術の確立

助成対象者一覧

【化血研若手研究奨励助成】

(五十音順・敬称略)

氏名	所属機関	職位	研究題目
塩田 拓也	宮崎大学 フロンティア科学 総合研究センター	准教授	梅毒トレポネーマの外膜タンパク質の生合成解析法の構築と阻害剤探索
柴田 琢磨	東京大学 医科学研究所	准教授	TLR7 が誘導する非炎症性応答の誘導メカニズムの解明
関 まどか	岩手大学 農学部	准教授	哺乳類体内に匹敵する肝蛭（かんてつ）幼虫の in vitro 培養系の確立 一薬剤開発のボトルネック解消を目指してー
相馬 悠希	九州大学 大学院農学研究院	助教	ヒト血漿を対象とした定量メタボロミクスの実現に資する合成生物学的アプローチ
高橋 大輔	慶應義塾大学 薬学部	専任 講師	腸内細菌を自己として認識する $\gamma\delta$ T17 細胞による宿主-腸内細菌共生関係構築
千田 剛士	浜松医科大学 医学部	特任 助教	D 型肝炎ウイルスを利用した遺伝子導入技術の開発と B 型肝炎治療への応用
伴戸 寛徳	旭川医科大学 医学部	准教授	ヒトの脳におけるトキソプラズマ潜伏感染機構の包括的な解明
三宅 健介	東京医科歯科大学 統合研究機構	特任 助教	1 細胞解析を用いたプレ好塩基球の分化機構解明
山本 雄介	国立がん研究 センター研究所 病態情報学ユニット	独立 ユニット長	大規模 1 細胞 RNA-seq による多発性骨髄腫の髄外病変の形成過程の解明と治療標的の探索
横田 明日美	東京薬科大学 生命科学部	助教	転写因子 C/EBP α と C/EBP β が制御する定常時とストレス時造血モード切り替え機構の解明

審査講評

(一財)化学及血清療法研究所は昨年度に引き続き、本年度(2023年度)も、感染症領域および血液領域を対象とした研究に対して助成を行いました。昨年同様、両分野から、14名の選考委員により、2段階にわたる書面審査で選考を実施しました。審査委員が一堂に会し、審査ができました。両方で268件の審査があり、研究助成6件、若手(45歳未満)研究奨励助成15件が採択されました。いずれも採択率が6.2%, 9.5%という、きわめて厳しい競争結果になりました。審査の基準としては、科学的に優れた研究であることの他に、同点であれば、独立して研究室立ち上げ中の若手、さらには女性研究者の優先を考慮しました。上位にランクされた研究申請に関しては、選考委員14人で、活発な議論を交わしました。この議論は、感染と血液の両分野の研究の価値観や研究の進め方について、考え方を共有する場でもあったと思います。優れた研究であっても、現在遂行中の大型研究費テーマとは重複しないことを優先しました。

また、今年度から、化血研研究助成3年間を2年間に短縮する一方で、若手研究奨励助成枠の中から、ステップアップ研究助成2件を選抜し、継続的な研究をサポートすることになりました。今後、この枠は徐々に拡大することが、選考委員会です承されました。

さらには、今後、女性研究者の積極的な応募、また、止血血栓や感染免疫学からの応募が増加することを期待しています。

本研究助成は、すでに4年が経過し、感染症・血液の領域において、レベルの高い研究助成として認知されるようになりました。本研究助成の被採択者が、日本の、あるいは世界の感染症・血液研究の一翼を担う成果ならびに人材となることを目的として、今後も、本研究助成の審査に寄与できればと考えています。

選考委員長

熊本大学 国際先端医学研究拠点 卓越教授

シンガポール国立大学・教授

須田年生

以上